

# コミュニティ だより

徳島市  
徳島市コミュニティ協議会  
徳島市幸町2丁目5番地  
TEL(088)621-5510  
FAX(088)621-5511

## 2014年を迎えて 徳島市長 原 秀樹



明けまして  
おめでとうご  
ざいます。

新しい年を  
健やかに迎え  
えのことに謹  
んでお慶び申  
しあげます。

皆さま方には、日ごろから、コミュニティ活動に多大なるご尽力をいただきととともに、市政推進に格別のご理解・ご協力を賜り、心から感謝を申しあげます。

ご承知のとおり、地方の分権改革が加速している中、それぞれの自治体には、個性や存在感を発揮しながら、魅力

と活力に満ち、安心して住み続けることのできるまちづくりが求められております。

今後、本市が

さらなる発展を続けていくためにも、地域の特性や資源を活かしたまちづくりとともに、地域における人と人とのつながりや絆を深め、コミュニティの活性化を図ることがますます重要になってまいります。

こうした中、皆さまのまちづくりに対する日々の積極的なご支援は、誰もが将来に希望を持ち、「このまちに生まれてよかった、住んでよかった」と思える地域社会づくりに欠かすことのできないものであり、誠に心強い限りでございます。

本市におきましても、元気で魅力ある徳島市の創造を目

指し、世界に誇る阿波踊りの継承と魅力発信、眉山やひょうたん島の魅力アップ、LEDが魅せるまち・とくしまの推進など、本市ならではの地域資源を様々な形で活かしたまちの魅力づくりに全力で取り組んでいるところでございます。

くしま」の実現に向け、一層の努力を重ねてまいる所存でございますので、引き続き、皆さまのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

### 新年のあいさつ

徳島市コミュニティ連絡協議会

会長 島田 和男



新年あけましておめでとうございます。

皆さまに取りましては健康やかな新年を迎えられたこととご推察いたします。

昨年を振り返ってみますと、安倍内閣が発足後「アベノミクス」という経済政策を発表し、成長戦略の三本柱を次々と提唱。しかも迅速かつ大胆

が建設された（昭和五十一年）という記事に驚くとともに、やはりという気持ちでした。当時、徳島県選出の秋田大助自治大臣が、徳島のある町で人知れず老人が孤独死し数日間発見されなかったという記事を見たそです。これはコミュニティの崩壊につながるという危機感を感じ、急遽自治省に指示し予算を組み、全国で初めて徳島市にコミュニティセンターが建設されました。

とにかく、私たちの大先輩がいち早くコミュニティの重要性を認め、市内の施設を整備して全国に誇れる組織ができています。

東日本大震災後、いかにコミュニティによる助け合いが必要であるか認識され、全国的に施設の充実が叫ばれるようになりました。

私たちはコミュニティの先進地としてお互いに情報交換をしながら切磋琢磨して、より良い組織を築いていこうではありませんか。

最後になりましたが、皆さまが幸多き年になりますようお祈り致しまして新年のあいさつと致します。

シリーズ  
名所・旧跡

# 南井上路傍の石仏

徳島峠を歩く会

会長 橘 禎男

近年、路傍に立つ石造物が、庶民の生活や信仰を語る民俗文化財として注目されています。町内を歩いていると、南井上地区にも優れた石造物があります。ここでは紙数の関係でその一部の紹介にとどめます。

## (一) 井戸北屋敷の石幢

(写真1)

石幢とは石塔の一種で、六角や八角の角柱の表面に仏像を彫ったもので、一般には六地蔵の石幢がよく知られています。井戸寺の南西約百メートルの県道脇に、正面は蓮華を持った半跏像の地蔵、左面に馬頭観音、右面に大師像を浮かし彫りにした石幢が立っています。

台石に、文化十三(一八一六)年の建立とありますが、土地の提供者や、寄付をした



(1) 井戸北屋敷の石幢

商人の名前もあり、近在の人々の信仰心を結集して立てたことがわかります。さらに、「石工戎屋藤兵衛」と刻まれていますので、渾身の力を振りしぼって彫りあげた石工の自信作だということも伝わってきます。遍路道ならではの一目に値する石造物です。

## (二) 池尻の地蔵

(写真2)

池尻集落の中央に、地蔵を真中にして右に不動明王、左に毘沙門天を従えた地蔵三尊が立っています。中心に立つ丸彫りの地蔵は、やや小ぶりの顔立ちで、細い目を僅かに

開いて、毎朝学校に通う子どもたちを優しく見守っています。特に、朝日が斜めに地蔵の顔を照らした時の光景は、かつての「南井上村」を連想させるような田園風景として美しい一幅の絵のように見えます。この地蔵には、毎朝地元の人々が参拝をし



(2) 池尻の地蔵



ていますが、路上で交わす何気ない挨拶にも心温まるものを感じます。子どもたちの成長を願うだけでなく、地域の安全や住民の幸せを願って暮らしてきた人々の歴史が、今も息づいていることがわかります。

なお、この地蔵が立てられたのは、今から二百五十二年前の宝暦十一(一七六一)年です。

(南井上コミュニティ協議会)

本年もよろしく  
お願いいたします

- 沖洲コミュニティ協議会 会長 三栖谷高照
- 津田コミュニティ協議会 会長 島田 和男
- 加茂名まちづくり協議会 会長 原田 治郎
- 加茂コミュニティ協議会 会長 大栗 敏治
- 八万町各種団体連絡協議会 会長 松尾 孜
- 八万中央コミュニティ推進協議会 会長 露口 玲子
- 八万コミュニティ推進協議会 会長 福田 紀雄
- 勝占地区コミュニティ連合会 会長 山口 敏
- 勝占中部コミュニティ協議会 会長 尾上 義一
- 勝占東部コミュニティ協議会 会長 高島 伸一
- 多家良地区連合協議会 会長 下條 敏也
- 多家良中央コミュニティ協議会 会長 芝原 孝昌
- 丈六コミュニティ協議会 会長 梅本 辰雄
- 不動コミュニティ協議会 会長 渡邊 浩一
- 入田町まちづくり協議会 会長 坂東 喜夫
- 上八万コミュニティ連合協議会 会長 河上 治義

# 一日研修旅行

## 舞鶴引揚記念館を訪ねて

### 西富田コミュニティ協議会広報部

毎年開催している西富田地区住民を対象とする一日研修旅行を昨年十月六日(日)に開催しました。

参加者三十九名を乗せた大型バスは、一路舞鶴市へ向かいました。今回の目的地は、「岸壁の母」で有名な舞鶴引揚記念館を中心に、五老岳山頂に建つ五老スカイタワーからの舞鶴市街・舞鶴湾の眺望、国指定の重要伝統的建造物群の赤れんが倉庫群の参観、復元された引揚棧橋の視察研修等を行いました。また、レストランでの昼食時には、舞鶴が発祥の地と言われる「肉じやが」をいただきましたが、とてもおいしかったです。

一・五老スカイタワー  
「近畿百景第一位」の眺望を誇るスカイタワーは、標高

三〇メートルの五老岳山頂に建ち、展望室からはリアス式海岸の舞鶴湾や舞鶴市内を一望できました。すばらしい絶景を楽しみました。



重要伝統的建造物群 赤れんが2号館(右)・3号館(左)

二・赤れんが倉庫群  
明治三十五・三十六年に建設された赤れんがの建造物が四棟、大正初期に建設された一棟が、国指定の重要伝統的

建造物群になっています。建物内を見学したのはその内の三棟で、建設当時は旧海軍兵器廠予備艦兵器庫でしたが、現在は市政記念館や舞鶴市の文化などの展示室になっています。国指定の赤れんが倉庫は現在も海上自衛隊の倉庫に使われています。倉庫群の近くの海岸には、潜水艦や十数隻の自衛艦も見られました。



引揚記念館でボランティア(中央女性)の説明を聞く

三・舞鶴引揚記念館  
主として旧ソ連邦(現ロシア共和国)や中国などの大陸で抑留されていた引揚者の辛く悲しい生活を後世に伝えようと作られた施設です。当時の厳しい集団生活や抑留生活の様子が展示されています。

厳しい強制収容施設ラーゲリの中の暮らしの一端を理解することができ、慄然としました。当日参加された方で、お父様が引き揚げて来た時の引揚船「恵山丸」の模型も展示されており、感激していただきました。また、抑留生活の日記などもあり、涙いっぱいの視察となりました。その後、記念館近くの海岸に復元された引揚棧橋も見学し、平和の大切さを痛感した研修旅行でした。



引揚記念館前で

- 上八万まちづくり協議会  
会長 富永 仁一
  - 一宮下町づくり推進協議会  
会長 祖川 信明
  - 川内まちづくり協議会  
会長 増金 賢治
  - 川内南コミュニティ協議会  
会長 河井 宏紀
  - 応神町コミュニティ協議会  
会長 玉置 勇次
  - 国府コミュニティ協議会  
会長 阿部 克己
  - 新町コミュニティ協議会  
会長 沖野 高穂
  - 西富田コミュニティ協議会  
会長 小出 雅彦
  - 東富田コミュニティ協議会  
会長 松ノ内 清
  - 昭和コミュニティ協議会  
会長 松岡 勤
  - 渭東コミュニティ協議会  
会長 中嶋 修三
  - 住吉・城東地区町づくり協議会  
会長 浜田 耕市
  - 渭北街づくり協議会  
会長 岩丸 定
  - 佐古コミュニティ協議会  
会長 三木 隆清
  - 南井上コミュニティ協議会  
会長 松島 孝昌
  - 北井上地区コミュニティ協議会  
会長 前川 俊治
  - 内町まちづくり協議会  
会長 豊田 雅信
- (順不同)

# 東龍王山の 雨乞い行事復活について

入田町まちづくり協議会

会長 坂東 喜夫



東龍王山

入田町では雨乞い祈願祭を毎年海の日に東龍王山山頂の龍王神社において、神事を執り行っています。  
入田町には、主峰である西龍王山（四九五・一メートル）、次峰の東龍王山（四〇七・八メートル）の山頂には八大龍王（仏教の神様）を祭る祠があります。龍王は、田畑に水

を潤す雨の神様として大昔から崇拜されてきました。入田町ではいつの時代から信仰の対象となったかは定かではありませんが、龍王山には白い蛇が住んでいるとの伝承が今に伝えられています。太古の昔から現在まで水は生命を保つ重要な要素であることに変わりはありません。農耕民

暮らしは困窮するため、天にいとされる八大龍王に少しでも近づき雨の恵みを授けてもらおうと、全国各地で雨乞いの行事が行われてきました。  
入田町では明治になって、用水が開通するとともに、龍王に対する信仰も薄れていき、昨今では龍王神社そのものが人々の脳裏から消え去ること

族である私たち日本人は、用水や水道が完備されなかつた時代には、豊かな安定的な水を求めて、川や井戸、泉や湖沼等に水が常時保たれるよう神のご加護を願って八大龍王を畏敬の念をもつて崇拜してきました。つまりこの時代には日照りが続く農作物に多大な影響を及ぼし、飢餓が生じ人々の

となりました。  
こうした時代背景のなか、平成元年七月に徳島県立神山森林公園の開設と、それに続く徳島県の健康保安林整備事業により、東龍王山の山頂部分一、四三二平方メートルの山林が入田町の安都真、東地、黒岩の三町内会に移管されました。これを機に雨乞いの行事を再開してはどうかとの話が持ち上がり、平成十年七月から安都真、東地、黒岩の三町内会が主催し、入田町まちづくり協議会が協賛して行われることとなりました。東地町内会に伝承されていた幟や小太鼓が再び目のみることとなりました。平成十七年には町内の有力企業により祠が寄贈され、一宮神社の宮司により神事が挙行され今日にいたっております。



雨乞い祈願祭

町まちづくり協議会では共に連携し、毎年七月の海の日に、草刈りや樹木の伐採等を行い環境整備を図っていくとともに、三町持ち回りで神事を行い、伝統行事を将来にわたって維持するための活動を続けています。



# 秋まつり・屋台の世話人の一日

## (勝占神社・杉尾神社・八坂神社)

### 勝占中部コミュニティ協議会

#### 会長 尾上義一



松尾神社 神事

であり、氏子は勝占中部のほか論田、大原、江田、前原等広範囲にまたがるが知名度はいまひとつです。午後三時三十分、煙火の

「トーコートン」「トーコートン」、台風の影響も少なく天候の回復が確信される秋空に屋台の大鼓の音色が心地よく響き、刈り取りの終わった田を横目に昨年十月六日午前七時二十五分、四名の乗り子に乗せて屋台が今回の当家宅を出発し、秋まつり本番が始まりました。前日には、八坂神社で祭礼がありました。

納(三回)「おかくらービュービュー」、当家宅へ屋台とともに戻り、早めの昼食をいただき、午前十一時四十五分コミュニティセンター前の勝占神社御旅所へ伺います。十二時三十分までに入り、山から降りてくる御神体に乗せた御輿の到着を待ちます。御輿が見え始めると御神楽を始めて到着まで続けます。



「サツセー」勇神楽

合図でおねり(行きが御幸、帰りを還幸かんこう)が始まります。「サツセー」という勇神楽は先に馬場入りしておき、屋台が先導します。最初に来た屋台は、勝占町で文化十四(一八一七)年とのこと。その後そう時をおかずに順次

終了となります。祭り事はむつかしいものですが、長い歴史と伝統あるものを誇りをもって次世代へと引き継いでいかねばならないと考えます。少子化で乗り子も少なくなり



おねり

出来たらしいです。馬場で祭礼後、再び御旅所へ戻り、山神輿に御神体を戻し、これを見送り、祭りは終了となります。当家宅に帰り、屋台の祭り付けをはずし、杉尾神社の倉庫へ収納、再び当家宅で御花の整理(乗り子、保護者帰路)、そして次回の当家・世話人を厳正に選出し、連絡し、世話人の用務は一応終了します。遅い夕食をいただき午後九時三十分すぎ家路に着きます。夜風が心地よい、充実した長い一日が終わりました。今年七月七日午前八時に杉尾神社で引継ぎをしてすべて

苦慮している様子。一方、日頃近所に住んでも話す機会のない方々とゆつくり懇談できたことは誠に有意義なことでした。私自身、世話人は九年ぶり四度目ですが、退職後は初めて、道路通行許可証申請、受理、保険加入、練習日の調整連絡、御幣の受取り等々と世話人らしいお世話が無事出来たことを世話人など関係の皆さんに紙面を借り、改めて感謝とお礼を致します。少しだけ手違いなど想定外の事もありましたが、迅速な対応で事なきを得ました。しかし数日間、足腰が筋肉痛に悩まされたのは想定内でした。

# 地域貢献高齢者表彰

受彰された方については左記のとおりです。

平成二十五年十月一日に開催された置市124周年記念式典において、今年度から策定された徳島地域貢献高齢者顕彰制度に基づき、日頃から地域コミュニティ活動に貢献されている方々に対し、原秀樹徳島市長から感謝状の贈呈が行われました。

市長からの祝辞の後、受賞者を代表して南井上コミュニティ協議会の岡本正氏より謝辞が述べられました。

内町まちづくり協議会

宮崎 利男

新町コミュニティ協議会

藤本 英明

東富田コミュニティ協議会

川村 豊重

昭和コミュニティ協議会

川田 仁志

住吉・城東地区町づくり協議会

岡本 實



地域貢献高齢者顕彰記念 平成25年10月1日

渭北街づくり協議会

松尾 勉

佐古コミュニティ協議会

木村 義次

沖洲コミュニティ協議会

山田 正昭

津田コミュニティ協議会

川中 公徳

加茂名まちづくり協議会

鈴木 勝行

加茂コミュニティ協議会

永井 浩資

八万町各種団体連絡協議会

片山ユミ子

八万中央コミュニティ推進協議会

武中 啓二

八万コミュニティ推進協議会

山口 常男

勝占地区コミュニティ連合会

村松 睦

勝占中部コミュニティ協議会

貝出 好一

勝占東部コミュニティ協議会

鈴木 忠

多家良中央コミュニティ協議会

松崎 茂

丈六コミュニティ協議会

長尾 文雄

不動コミュニティ協議会

秦 廣記

入田町まちづくり協議会

高橋 浪子

上八万コミュニティ連合協議会

松浦 英一

上八万まちづくり協議会

川人 善夫

一宮下町づくり推進協議会

高田 政一

川内まちづくり協議会

植田 文平

川内南コミュニティ協議会

浜 幸雄

応神町コミュニティ協議会

新居 正規

国府コミュニティ協議会

黒川 茂里

南井上コミュニティ協議会

岡本 正

北井上地区コミュニティ協議会

篠原富久枝

以上三十名(行政区順)

## ◆市長祝辞

この度は、地域貢献高齢者の顕彰を受けられました皆さま方におかれましては、誠にありがとうございます。心からお祝い申し上げます。

被顕彰者におかれましては、日頃からコミュニティ活動に深いご理解とご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。本市では、平成二十五年度から地域において活動されている方を対象に、新しく「徳島地域貢献高齢者顕彰者制度」を策定いたしました。この制度は、地域の絆を育て、地域の安心や安全を図る取り組みや地域の活性化につながる

る社会貢献活動を通じて、地域を元気にする高齢者の方々に対しまして、感謝状を贈呈する制度でございます。(平成二十五年度におきましては、昨年十月一日の置市記念式典において三十人の方々へ感謝状を贈呈致しました。)

被顕彰者の皆さま方におかれましては、率先して地域の社会貢献活動をされていることは、コミュニティの振興を重要施策に掲げる本市と致しまして力強く感じており、その真摯な努力に対しまして改めて敬意を表するものでございます。

また、皆さま方の社会貢献活動は、地域住民の方々への目標となり、地域社会への参加意識が高まり、強いては活気のあるまちづくりにもつながっていくものと考えております。

今後におきましても、地域のリーダーとして地域の活性化のため、今後のさらなるご活躍をお願い申し上げます。平成一十五年十月一日

徳島市長 原 秀樹

◆ 代表者謝辞



ご紹介をいただきました、岡本でございます。

本日ご受彰の皆さまに代わりまして、一言お礼のご挨拶を申しあげたいと存じます。

本日、私たちは思いがけなくも受彰のよろこびに浴することができましたこと、ただ、ただ感謝と感激で胸いっぱいでございます。

私たちは昭和という激動の時代を、よくぞ今日まで生き長らえてこれたものだと喜んでおります。

私も九十歳をはるかに越え、人生の余命いくばくもなくともいうところまでできていると思うのでありますが、どうぞ社会の皆さまにご迷惑をかけることのないように、そして、自分は自分らしく楽しく余生を送ることができたら幸せだなど、こんなに思っております。終わりにになりましたが、徳

島市のますますのご発展を心からご祈念申しあげ、甚だ粗辞でございますが、お礼のご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございます。ございました。

平成二十五年十月一日

岡本 正

おばさんパワー全開です



沖洲婦人会 会長 板東 恵子

流しそめん

沖洲婦人会会長として活動を始めて七年目となります。その間、防災訓練や沖洲コミュニティまつり、募金活動などの協力、各種講座の開設など、



恒例の「流しそめん」はミニト

各種団体との連携をとりながら、地域に根ざした女性ならではの活動を心がけて、邁進しております。

さて、核家族であふれている現代ですが、私たち婦人会の役員会でも「地域の子どもは地域の大人と一緒に見守っていこう」という意見がたくさんあります。そこでここ数年は、子育て支援にも力を入れております。

まず、忙しく働く児童の保護者の方のために、夏休みの子どもたちの昼食作りを、沖洲学童保育で行っております。朝早くからコミセンの調理室にボランティアが集合して調理します。メニューで好評なのは、「焼きそばパン」です。初めて食べた子どもたちからは、「おいしかったから、また作ってな。」と言われ、その笑顔に「デレデレ?」

マトやブドウが人気です。会員の中には、子どもとふれあうことが少なく、この日を楽しみにしているボランティアの方もいます。

また、二年前になりますが、当時、沖洲小学校の日野校長先生から「シニア世代の私たちが遊んだ昔の遊びをぜひ体験させてほしい」との依頼がきっかけで、めんこ、おてだま、あやとり、おはじきなどの伝承あそびをしております。



めんこ

校長先生の依頼と、私たちの日ごろの思いが重なり、子どもとともに楽しむ昔遊びに取り組みましたが、いつのまにか子どもに混じって必死に遊んでいて、時間があっという間に過ぎてしまいました。大人も子どもも人間関係が希薄になってきている現代で



あやとり

ですが、子どもたちは多くの人と直接コミュニケーションを重ねる中で、あいさつの大切さやおばさんたちの心の温かさ(手前味噌です)を感じてくれたようです。

子育て支援として活動しておりますが、反対に子どもたちからパワーをもらっているのではないかと思うこともあります。子どもたちが、人とつながることの大切さを感じてくれ、心豊かに育っていくことのお手伝いができるように、これからもかわっていくことができればと思っております。

最後に、どの地域でも課題となっておりは存じますが、沖洲も会員の高齢化が進んでいるのが悩みの種となっております。(沖洲コミュニティ協議会)

# 渭東二年間の活動

## 子どもたちと共に

### 渭東コミュニティ協議会

渭東コミュニティセンターは、一階に保育所、二階にコミュニティ協議会と公民館、そして三階は児童館と、全国でも珍しい複合施設となっています。

ここは、子どもたちの明るい笑顔と元気な声で一日が始まります。そんな、渭東の子どもたちとの季節の行事や活動を紹介します。



プラ板工作

秋には、全館での避難訓練を行います。一階から三階まで、保育所園児を避難誘導します。センター利用の方々にもお手伝いいただき、

春休みと夏休みには「アニメ映画大会」。保育所と児童館の子どもたちが毎回楽しみにしています。子どもたちには好評なのは、意外にも昔の無声アニメ。スクリーンを一生懸命追う目には想像力がいっぱいあふれ、その懐かしい映像に大人もはまります。夏休みには「うどん打ち教室」、「木工教室」、「プラ板工作」などを実施。この「プラ板工作」は、昨年初めて「少年を守る母の会」の協力を得て行いました。夏休みの自由研究にもなると大変好評で、来年度も実施を予定しています。



避難訓練

スムーズな避難ができるよう訓練を行いました。災害時に慌てず、適切な行動ができるようにみんなで真剣に取り組んでいます。

冬の文化祭は、昨年で三年目となった大きなLEDツリーも花を添えて、全館のお楽しみ会となりました。子どもたちの作品は、会場の一番目立つところに展示。昨年も力作ぞろいでした。

また、毎月一回「お茶会」を催すのは保育所。小さいながら、静粛にお稽古しています。一年生に上がる頃にはお点前も上達。時には公民館と協議会もおもてなしにあずかり、いただくお茶は、どこか



冬の文化祭

ほっこり心に染みこみます。このように、ここ渭東は子どもたちに囲まれて、四季折々を過ごしています。子どもたちが元気ですくすく育つよう見守りながら。そして、共に成長できることを願いながら。

### 編集後記

恭賀新春 沖洲の海原遙か元旦のだるま朝日が立ち昇りました。朝日に向かって青砂の上を流れる大河吉野川。世界無比の肥沃な平野に立つ徳島市。希望と発展の都市であらねばなりません。

豊臣秀吉が、蜂須賀氏に夢を託し徳島城を築かせました。爾来、藍、塩、和紙、米の名品を造り日本有数の藩を築きました。

市長の年頭の言葉に「心おどる水都・とくしま」むべなるかなです。その力の源に「地域の活性化」を重んじています。会長もそのためには「地域がお互いに情報交換をし切磋琢磨し、よりよい組織づくり」を呼びかけています。

南井上の庶民の生活や信仰が宿った石幢、石仏の紹介、入田の八大龍王崇拜の復活、勝占中部の勝占神社等の長い歴史と伝統ある神輿のおねり等は、現代人への心の復活を訴えています。

渭東コミセンや沖洲婦人会の「豊かな心を育てる子ども作り」は最重要です。西富田の歴史を訪ねた研修も光っています。

(佐藤義忠 記)